

女と男がともに生きる未来へ

Step

「婚活」に本当に大切なこと

「婚活」最前線～「花婿学校」がめざすもの～

子を思う親心「親の代理見合い」

イマドキの結婚事情

「婚活」が必要な時代とは

vol.14

泉南市

いま親が
考えてほしいこと



親世代が結婚したときといまでは結婚をめぐる状況が大きく変わっています。「自然」に結婚できる時代ではない、というだけでなく、結婚のあり方も多様化しています。結婚しても別々に暮らす「別居結婚」、週末だけ同居生活を送る「週末婚」といったライフスタイル。法的に夫婦別姓が認められていないことも背景にある「事実婚」や、「男が仕事、女が家庭」という役割を逆にした「専業主夫」を選ぶ男性なども。また、さまざまな結婚のありようと同時に、「非婚」という結婚しない生き方を自分の意思として選ぶ人もいます。

結婚するかしないかいずれにしても、子どもの人生を親が代わりに生きることはできません。まわりと比べて一喜一憂し、子どもを責めたり、自分自身が落ち込んだりするよりも、「親ができることは限界がある。子どもの問題は自分の責任範囲外なのだ」と考えて、自分自身の残りの人生を充実させるよう気持ちを向けることが大切でしょう。親が少しでも健康に楽しく老後を暮らして、子どもに負担をかけないことは、子どものためでもあるのです。

たちは、40代前後の先輩世代が両立に苦勞しているのを見て、仕事か家庭かと言われたら、迷わず家庭に重きをおくようになりました。しかし、保守化する女性たちを経済的に支えてくれるはずの男性たちは、不況の就職氷河期を経て、いま現在18歳から35歳の男性の3割が非正規社員です。35歳一万人の調査で平均世帯年収は400万円という調査結果もあります。経済的に自信を失った男性たちは精神的にも女性をリードできません。

中流家庭を男性一人の稼ぎでは支えられない・・・そんな時代が来ているのに、結婚観だけは相変わらず、男女ともに昭和的夫婦のままなのです。

「家計」と「家庭」を男女がともに担う

男性たちも「一家を背負う」ことにプレッシャーを感じ、結婚を先延ばししています。「妻にも働いてほしい」と願いつつ、やはり「育児と家事」は女性メインの仕事。現に既婚女性の家事時間は一日4時間以上であるのに、男性は女性が働いていても働いていなくても、家事時間は40分と49分で大差がありません。

ある女性誌でアンケートをとったところ、結婚した女性は相手の「容姿」と「年収が理想より百万少ないこと」を妥協していました。「まあ、いいか、私が働けばいいからと思いました」と回答欄に記入した人が多かったのが印象的でした。「私が働けばいい」と思わせるのは、やはり相手の男性に惹かれる気持ちがあるからこそです。女性たちが本気で働き続けること、男性が働く女性の魅力あるパートナーとなること・・・いつか自分を養ってくれる白馬の王子様を待つのではなく、男女ともに働き、「家計」も「家庭」も責任を分担する意識を持つこと・・・それが婚活成功の早道なのだと思います。



白河桃子さん(しらかわ とうこ)

ジャーナリスト&ライター。女性のライフスタイル、未婚、晩婚、少子化などをテーマに膨大な取材量には定評がある。山田昌弘中央大学教授とともに「婚活（結婚活動）」を提唱し、共著の『「婚活」時代』（ディスカバー 21）は19万部のヒットに。「婚活」は2008年度流行語大賞にノミネートされるほど世の中に影響力を持つ言葉となった。

「婚活」に 本当に大切なこと

「婚活」という言葉が広く使われるようになり、「婚活」が必要な時代という理解は広まったが、本当に大切なことが伝わっていないと言っ白河桃子さん。
「婚活」で本当に大切なこととは何でしょうか。

誤解されている「婚活」

「条件と愛情と、どちらを優先したら幸せになりますか？」そんな質問を受けるたびに、今の時代の結婚の難しさを感じます。多くの人が「完璧に幸せな結婚の仕方を教えてください。そうでなければいりません」というのが今の結婚のスタンスなのです。特に女性の場合は・・・結婚はもはや「嗜好品」なのです。

「婚活」が多くの皆様に受け入れられ、「結婚するためには待っているだけでは始まらない」という意識は浸透しました。しかし婚活には多くの誤解があります。「女性が条件のいい男性を取り合うため」「結婚相談所やお見合いパーティーに行くこと」というふうに思っている方も多いのです。

婚活で一番大切なのはHow to（ハウツー）ではなく、意識の変革です。お父さんお母さん時代の昭和的結婚観のまま婚活しても、結果はなかなか得られません。当事者も、父母も大きく結婚への意識転換をしなくてはいけない時代です。

「普通」が変化している

「自然な出会いで結婚したい」「出産したら養ってほしい」「男の人にリードしてほしい」という女性ほど、結婚に苦勞しています。

まず「自然な出会い」とは実は「受身」でいることです。日本人を黙っていても結婚させていた自動結婚システム・・・お見合い結婚、その後が「社内集団見合い」のような社内結婚・・・は80年代で崩壊しています。ここ30年間の結婚の減少はこの両方の結婚の減少で説明できるのです。

昭和的結婚の時代は「経済的安定」に重きがおかれ、結婚が「生活必需品」でした。いまは「不況」による男性の収入減で、「普通の人がいい」という多くの女性たちの「普通」像が、すでに難しい時代です。「普通」という意味は「実家レベルの生活」「お父さんのように一家を養ってくれる男性」という意味です。

バブル期に女性の社会進出は進みましたが、結婚に女性が「経済的安定」を求めるスタイルは変わっていません。その背景には、現在も7割の女性が出産を機に退職する現状があります。20代、30代女性





「婚活」最前線

「花婿学校」が めざすもの

かつて結婚に備えて女性が行った「花嫁修業」。いまや男性が結婚に向けて自分を磨く時代です。結婚したいと考える男性を支援する「花婿学校」を主宰する大橋清朗さんにお聞きしました。

コミュニケーションできない男性

「最初は、男女の出会いパーティーを企画する事業を立ち上げようと考えていました」と言う大橋さん。何度かパーティーを企画して気づいたのが、男性のコミュニケーション力のなさ。この根本的な問題を解決しないと、いくら出会いをセッティングしても次に発展しない。「これは近い将来、社会問題になる」と直感したそうです。

結婚への一步は コミュニケーション力を高めること

大橋さん自身が、小さい頃から自分を表現することが苦手。そんな自分を変えようと努力した経験から、相手の気持ちを受け止めつつ自己表現するコミュニケーションの重要性を語ります。男性は会話のなかで自己主張する傾向が強く、共感を求めている女性に気づいていないそうです。コミュニケーション力の差が結婚できる、できないに影響しているとも。大橋さんの講座を受けた男性が「出会い以前の問題だったと気づきました」と言います。

変えられるのは自分

「過去と相手は変えられない。自分を変える勇気を出した分だけ人は幸せに近づく」大橋さんの体験にもとづく言葉です。「本当にパートナーがほしいのなら、相手に好感を持たれるような身だしなみやふるまいが必要。自分の現実を見つめて変わる勇気を持とう。お互いを認め合い、目標や夢に向かって前進する、そんなパートナーになってほしい」と熱く語ります。



「花婿学校」代表 **大橋清朗さん** (おおはし きよはる)
プロフィール

「NPO法人花婿学校」代表。社団法人パフォーマンス教育協会「認定インストラクター」。「婚活」という言葉が誕生する前から結婚活動を支援しており、これまで全国で多くの未婚男性に婚活支援講座を行っている。

子を思う親心 「親の代理見合い」



この30年間で、20〜30歳代男女の未婚率は約3倍に上昇しています。結婚したいけれどできないと言う人が増えて、「婚活」（結婚活動の略）という言葉がブームになっています。子どもを結婚させたい親同士が子どもの写真やプロフィールを交換する、親の「婚活」とも言える「親の代理見合い」が各地で開かれています。それだけ、子の結婚問題に悩みを抱えている親が多いと言えるでしょう。結婚しない子を心配する親の声がきっかけで、最初に「親の代理見合い」を思い立った斎藤美智子さんにお聞きしました。

親の心配

「娘に結婚のことを言うと不機嫌になるので話もできません。親として何かできることはないかと、居ても立ってもいられなくて参加しました」。斎藤さんが主宰する「親の縁は子の縁交流会」に参加した母親の声です。

「最初は、子の結婚を心配する親同士が悩みを話せる場として始めました。親が動くことが一つのきっかけになったり、親子のコミュニケーションの回復につながることもあるのです」と斎藤さん。

ただ、過干渉な親が増えて、子どもの側に「やってもらって当たり前」の気持ちがあることも多いそうです。「親の庇護のもとで、自分の将来を見通して人生設計を考える力が弱まっていると感じます。結婚してもしなくても、子どもが経済的、精神的に自立するように促すのは親の役割です。親が子に遠慮して、腫れ物に触るように接していることもあり、子どもが他人に心を開いて協調的な関係を作れない一因かもしれません」。

現実をしっかりと見る

この10年で、子どもが結婚していないことを引け目に感じる親は少なくなったようですが、結婚に対する意識は変わっていないとか。

最近の交流会で、男性側の親の参加が減っている背景を「不況で収入が減るなどで、男性側に交流会への参加を躊躇させる現実があると感じます」と話すのは斎藤さんとともに交流会を運営する藤野利恵子さん。男性に経済力を求めるだけでなく、二人で働けば何とかなると考えることも必要でしょう。「私たちは、理想と現実のギャップを埋めるお手伝いをしているのです」。

斎藤美智子さん
プロフィール

結婚相談室オフィス・アン代表。
自分自身が周囲から結婚相手を
紹介してもらったことで結婚で
きたと思う体験から結婚相談室
を開設した。



全国【親の縁は子の縁】
交流会代表
斎藤美智子さん



全国【親の縁は子の縁】
交流会福岡支部代表
藤野利恵子さん



Step

ジェンダーキーワード

インフォメーション

泉南市には女性を対象にした相談窓口があります。自分自身のこと、家族のこと、どんな悩みでもお聴きします。相談者のプライバシーは厳守しますのでご安心ください。

「育児・介護休業法」

働く男女の仕事と子育ての両立支援をいっそう進めるために、平成21年4月に育児・介護休業法が改正されました。子育てに関わるおもな改正点を紹介します。

■子育て期間中の働き方の見直し

- ★3歳までの子を養育する労働者について、短時間勤務制度を設けることと、請求があったときには、所定外労働の免除が義務づけられました。
- ★子の看護休暇が拡充されました。

■父親も子育てができる働き方の実現

- ★父母ともに育児休業を取得する場合の休業可能期間が延長されました。
- ★出産後8週間以内に父親が育児休業を取得した場合、再度の育児休業が認められます。
- ★妻が専業主婦の場合も父親の育児休業が取得できるようになりました。

女性相談 (面接)

静かな個室でカウンセラーがじっくりとお話を聴きます。
相談時間は1人1時間程度。※電話予約が必要です。

電話／**072-480-2855** (直通) 人権推進課

場所／せんなん男女共同参画ルーム「ステップ」相談室

第1 金曜日／午後**1**時～**4**時

第2 火曜日／午後**6**時～**9**時

第4 金曜日／午前**10**時～午後**1**時

女性のための 電話相談

専門の相談員が電話で相談をお受けします。

電話／**072-482-0590**

毎週木曜日 (祝日と第5木曜日を除く)

午前**10**時～**12**時／午後**1**時～**3**時

発行

泉南市人権推進課

〒590-0592 泉南市樽井1-1-1

電話／072-480-2855

ホームページ <http://www.city.sennan.osaka.jp/jinkenkeihatu/2/index.htm>

Eメール jinken@city.sennan.lg.jp

平成21年11月